

“フェーズフリー”の考え方を導入 小清水町防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」の取り組み

北海道小清水町 石丸 寛之
2026.10.6

小清水町



網走

知床半島

札幌

釧路

カルビーポテトチップス発祥の地（1975年）

「地理院タイル」





小清水町役場リニューアルプロジェクト

人口約4500人の消滅可能性都市で

賑わいあふれる「町の中心拠点」となる役場をつくる

「用事がないと行かない場所」を「用事がなくとも行きたくなる場所」へ

- ・平成19年内外装のみ改築（昭和37年建築）
- ・建物躯体の老朽化に伴う耐震不足顕著

・財政負担考慮すると後回し

しかし、
熊本地震、東日本大震災→災害対策本部不能

そこで、
「市町村役場機能緊急保全事業債」
→全国的に庁舎建て替え活発

改築前の旧庁舎



2018年 胆振東部地震43時間ブラックアウト

コミュニティ

役場

防災

健康

小指水町役場
フワリノ

小清水町役場
ファッション

Osaka
Laundry
Place

事業期間

令和 2 年4月～令和 5 年3月

建築概要

建築面積： 2,524.38m²

延床面積： 3,949.37m²

階数： 地下1階地上2階

構造種別： 鉄筋コンクリート造

主要用途

- 役場
- コインランドリー
- フィットネスジム
- カフェなど



総工事費 2,939,656千円

※設計等業務含む

(事業費)

設計等業務	130,339千円
本体工事	2,388,243千円
温泉施設整備	182,287千円
その他	238,789千円

(充当財源)

市町村役場機能緊急保全事業債	1,427,200千円
過疎対策事業債	740,900千円
基金	598,724千円
地熱井掘削支援事業補助金(道)	50,000千円
一般財源	122,832千円

※備品購入費 145,319千円

熱源として温泉熱を活用しCO2削減、にぎわい空間には地方創生推進交付金等活用しコストを低減



「用事がないと行かない場所」を
「用事がなくとも行きたくなる場所」へ

来庁者数
4,800人→122,000人





役場



ランドリー



カフェ



スポーツジム

コミュニティ

役場

防災

健康

← P

小清水町
防災標

場

小清水町商工会

ジム

カフェ

「用事がなくても行きたい役場」 だからこそ

新たな防災に関する概念として「フェーズフリー」を導入

フェーズフリーとは

フェーズフリー計画

□フェーズフリーとは

・日常時と非常時という2つのフェーズをフリーにする『フェーズフリー』

身のまわりにあるモノやサービスなどを、日常時はもちろん、非常時にも役立てることができるという防災の新しい考え方、それが『フェーズフリー』です。

防災用品のほとんどは、ふだんはしまっていて、非常時のみに取り出して使うものですが、フェーズフリー品は日常時のいつもの生活で便利に活用できるのはもちろん、非常時のもしもの際にも役立つ商品・サービス・アイデアです。

□フェーズフリーによる庁舎の実現

・これまでの「日常時の施設＋非常時の備え」で構築されてきた建物ではなく、「フェーズフリー＝日常時の価値が非常時の価値に連続的につながる」を具現化した庁舎を目指します。

・新庁舎及びその周辺環境に日常から存在する可能性のある脆弱性を、フェーズフリーの発想のもと、日常の価値によって改善し、結果として災害の発生を防ぎます。



■フェーズフリーの概念に基づく庁舎の実現

・フェーズフリーの概念を取り入れ、日常時から非常時にもシームレスに対応できる仕組みを導入。

・庁舎熱源に温泉熱を活用することにより、電源喪失時においてポンプを動かすことができる程度のミニマムな非常用発電機で対応が可能となりイニシャルコストの低減を実現。

・平常時は温泉熱を活用したHOTヨガのプログラムを実施する空間であるスタジオは非常時には、床暖房でかつ柔らかい床の施工により直ぐに一時的な避難所へ転用可、コインランドリーは非常時に無料開放することで衛生保持に期待。

・カフェ機能は炊き出し可能な設備を導入



温泉熱



衛生



炊き出し

【ポイント】

①「何かあったら、逃げてきて！」

- ・役場 ⇒ 災害対策本部
- ・ジム ⇒ 一時避難スペース（床暖房）・シャワー
- ・ランドリー ⇒ 衛生環境保持
- ・カフェ ⇒ 炊き出し・自販機の開放

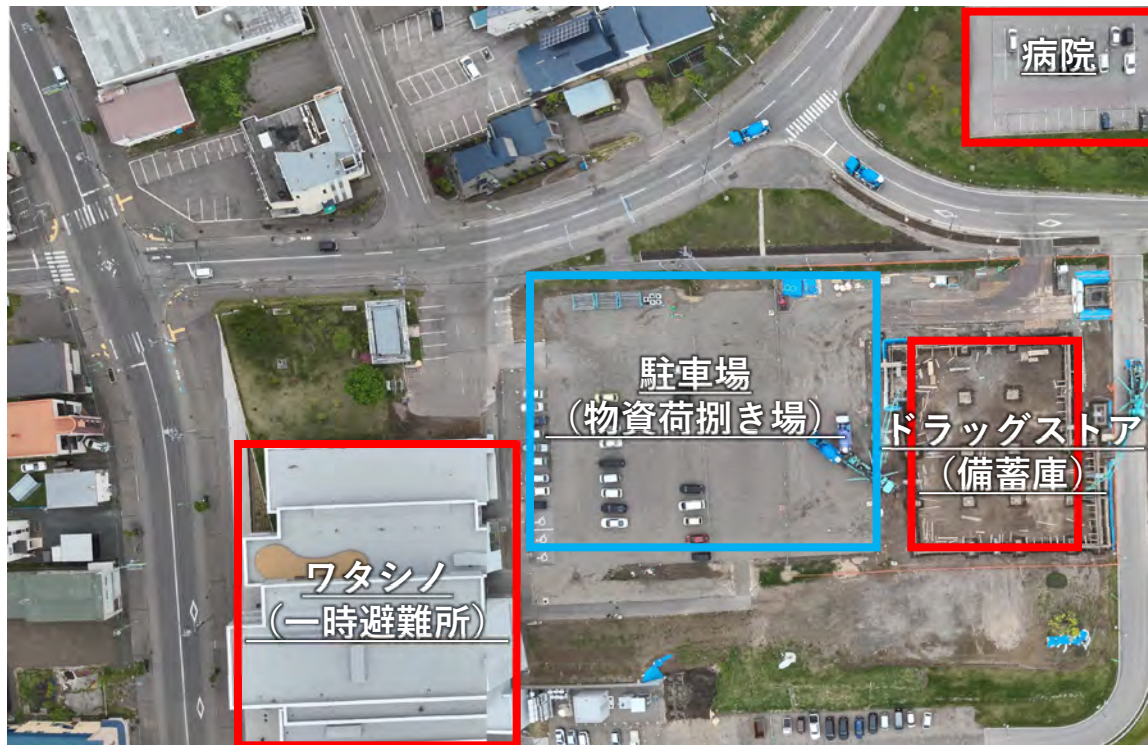
②限られた職員数（80名）による初期対応

Q フェーズフリーの展望や意義は

フェーズフリーの意義は？

- 庁舎建設って政争の具？ ⇒ 住民の理解を得やすい（命、財産を守る）
- 限られた職員数 ⇒ 災害対策本部 = 1次避難所である利点
(※指定避難所の開設準備までの間)
- 避難所ってどこ？⇒ 普段づかいの施設（ワタシノ）である認知度
- 行財政改革 ⇒ 政策間連携は必須（健康＋防災＋コミュニティ）
- ※「備えない防災」⇒ 同程度のコストで日常時と非常時を兼ねる仕組み
いつ利用するか分らないものを備蓄？
定期的な更新が不要（無駄な業務の排除）
複雑化する需要 ⇒ 持続可能性のある財政規律を

「ウェルビーイングの視点」「防災への取組姿勢」「無駄の排除」
行政にとって、フェーズフリーは、、、1粒で2度、3度美味しい！！！！



ワタシノ近隣にドラッグストアを誘致

- ・ 共用駐車場 ⇒ 物資荷捌き場
- ・ ドラッグストア ⇒ 備蓄庫（行政備蓄が不要となる）

【余談】

ドラッグストアの誘致、、、
北海道内の2大ドラッグストアの一翼
サッドラを誘致した訳は、、、  

さいごに

◆「ワタシノ」は、単なる災害に「強い建物」ではありません。

◎フェーズフリーを活用した「備えない防災」の基盤には、住民のウェルビーイング（幸福・健康）の向上があります。

◎ウェルビーイングの視点：日常の「幸せ」が「強さ」になる

フェーズフリーの究極の目的は、災害時でも住民のウェルビーイングを損なわないことです。

①社会的ウェルビーイング（つながり）

役場の中にカフェやランドリー、フィットネスがあることで、高齢者から若者までが日常的に交流します。この「顔の見える関係」が、災害時の孤独死防止や共助の精神を育みます。

②身体的・精神的ウェルビーイング（健康）

「役場に行く」ことが、行政手続きではなく「運動（ジム）やりラックス（カフェ）」のためになります。普段から健康を増進しておくことが、避難生活におけるエコノミークラス症候群の予防や、災害関連死の抑制に直結します。

③心理的安全性

「何かあっても、あそこ（ワタシノ）に行けば温かい食事があり、洗濯ができ、仲間に会える」という確信が、住民の日常的な不安を軽減し、精神的な豊かさをもたらします。

連携する政策分野	政策目的（日常）	防災への転換（非常時）
防災×産業振興	地元産品を売る・食べる（にぎわい）	備蓄食料としての流通・供給体制
防災×保健福祉	フィットネスでの健康寿命延伸 保険料の費用抑制（国民健康保険）	避難所のQOL向上・介護スペースの確保
防災×エネルギー	地熱・太陽光による光熱費削減	停電時のエネルギー自給（BCP対策）
防災×まちづくり	賑わいのある中心市街地の形成	拠点への迅速な集約・避難 避難所ってどこ？？？の解決

「政策間連携」がもたらす財政的メリット

別々に施設を作ると、建設費も維持費も膨大になります。
小清水町はこれらを統合することで・・・・・・・・・・

- ①**建設コストの効率化**：複数の機能を1つにまとめ、補助金を戦略的に組み合わせる。
- ②**維持管理の持続性**：カフェやショップなどの収益部門を入れることで、役場の運営コストを補完する。
- ③**職員の連携強化**：部署を越えたコミュニケーションが日常化し、有事の際の意思決定がスムーズになる。